

「トンペイ」の誕生－東北大学の歴史から

高度教養教育・学生支援機構 中川 学

はじめに

・1年生向けの教養教育科目の1つ、「東北大学を学ぶ」。「自校史」教育の講義。

・本講義の目的

「トンペイ」の愛称で知られる東北大学。明治40年（1907）におけるその誕生と歴史的背景、そして大学の特徴の1つである「門戸開放」について、史料をとおして学ぶこと。

1. 寄付で生まれた大学

○戦前における学校制度

帝国大学／ 高等学校、専門学校、師範学校 ／中学校 ／小学校 ※【図1】
(21-23才) (18-20才) (13-17才) (6-12才)

○東北帝国大学設置運動

明治31年(1898)以降、文部省が高等教育の大規模な拡張計画を企図する。北海道・九州・東北などにおいて大学設置運動が勃発。

○創立とその背景

・日露戦争による疲弊・財政難のため、大学設置は困難な状況へ。

・明治39年(1906)12月 原敬内務大臣が古河鉦業へ寄付を働きかけ。その寄付金100万円によって大学設置が実現した。

・設置の背景＝【①】（史料1「原敬日記」）。

→なぜ古河は多額の寄付をしたのか？ ※【史料1】を読んで考えよう。

【 】

・明治40年6月22日に設置の勅令が公布、9月1日に東北帝国大学が設置。

札幌に農科大学、仙台に理科大学という2つの分科大学（現在の学部にあたる）が置かれた。【図2】。

2. 門戸を開いた大学

・明治44年(1911)1月1日 理科大学（現在の理学部）が開設。場所は片平地区。

（1）傍系入学

・先行する東京・京都帝国大学が入学者を高等学校卒業者に限定していたのに対し、東北帝国大学では、師範学校・専門学校等の卒業者や教員免許状を持つ者へも入学資格を認める。

→この入学資格の拡大を傍系入学と呼ぶ（史料2）。ただし、高等学校卒業者を入学させて、定員割れをした場合のみ実施された。

→なぜ、この方針が採用されたのか？ 【②】（表1）。

・その結果、多様な学生が集う大学へ（表2）。

（2）女性の帝国大学入学

・大正2年(1913)8月に帝国大学で初めて、女性の入学（3名）を認める。理科大学に入学。教員免許＝彼女たちの入学資格。

・文部省からは「女子を帝国大学に入学させることは前例がない重大な事件」として反対意見が寄せられる（【参考史料】）が、東北大学は入学を決定。その理由と背景は何だったのか？

・初代総長・澤柳政太郎の女性の帝大入学に関する記述を読んでみよう（【史料2・3】）

→女性の帝大入学は、【 】。澤柳総長個人ではなく、理科大学の教授陣も同じ考えを持っていた。女性の帝大入学は、進歩的思想に基づくものではないが、大学史のなかでも画期的出来事。

おわりに

○日本で初めて民間の寄付で誕生した大学となる。

○門戸開放は傍系入学と女性の入学の2つからなる。この方針が採用された理由は、後発大学の【 】にあった。

主な参考文献

『東北大学五十年史』（1960）、『北大百二十五年史』通説編（2003）、『東北大学百年史 1』通史 1（2007）

【史料 1】『原敬日記』

十七日 東北大学其他に関し牧野文相来訪内談せり、財政の都合にて東北大学ともに大蔵省の削減に遭ふて困難する由に付、兼て古河家に於て公共的献費の企も之ありしに因り、新當費を支出して献納せしめんと考あり、且つ此際大学設立尤も必要に付文相に兼て内議し置きたる為めなり、此献納あれば始めて大学の設立を見る事にて国家の為にも甚だ利益なりと信じたるなり

三十日〔略〕古河も此儘に打過ぎては世間非難を免がれざる事に付、兼て公共的に相当の寄附をなすを得策と考へ〔略〕

（明治 39 年 12 月 17・30 日条、原文カタカナ、北泉社）

【参考史料】

八月二五日、総長文部省へ出頭、次官へ面談済（印・黒田）

発専八九

本年貴学理科大学入学志望者中、数名の女子出願致居様聞及び候處、右は試験の上、撰科に入学せしむる御見込に候哉、元来女子を帝国大学に入学せしむることは前例無之事にて頗る重大なる事件に有之、大に講究を要し候と被存候に付、右に関し御意見詳細承知致度、此段及照会候也

大正 2 年 8 月 9 日

文部省専門学部局長 松浦鎮次郎

東北帝国大学総長 北條時敬 殿

（東北大学史料館所蔵）

【史料 2】澤柳政太郎「一等国の大学」（抄訳）

仙台において女子の大学入学という途を開いたことは、女子の高等教育を大いに奨励すべしという意見から出たものではない。東北帝国大学では教員免許状を持った者には試験をして入学させるという規則を設けてある。そのような資格を認めた以上、男子でなければならないということはない。女子も教員免許状を持っている者は拒否する必要はないという考えに至った。これは私の考えではなく、仙台の理科大学の教授は皆ほとんど同じ考えを持っていたのである。

（『澤柳政太郎全集』第 3 巻、国土社、1978）

【史料 3】澤柳政太郎「欧米の女子教育」（抄訳）

実は白状すると、私たちが東北大学でおこなった女性の入学を、非常に進歩的な考えからなされたと女子の高等教育関係者から言われるのであるが、進歩的な考えでも何でもなかったのである。

東北大学では、中等教育の先生になる資格のある人ならば、高等学校を卒業した者と同等の力とみなしてよかろうと考え、規則を制定した。その場合、女子であってはならないという理屈はないと思ったので、女子の入学を認めたのである。

（『現代文化と教育』民友社、1924）

図 1 学制系統図

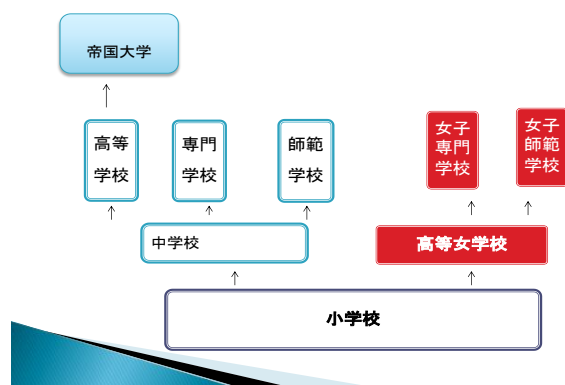


図 2 帝国大学の構成（明治 40 年代）

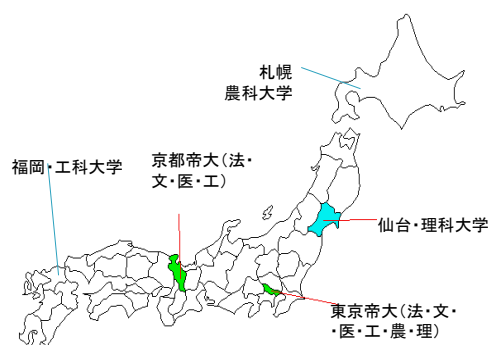
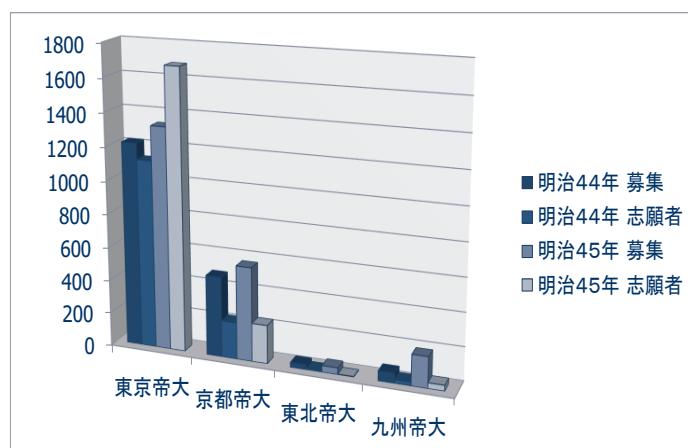
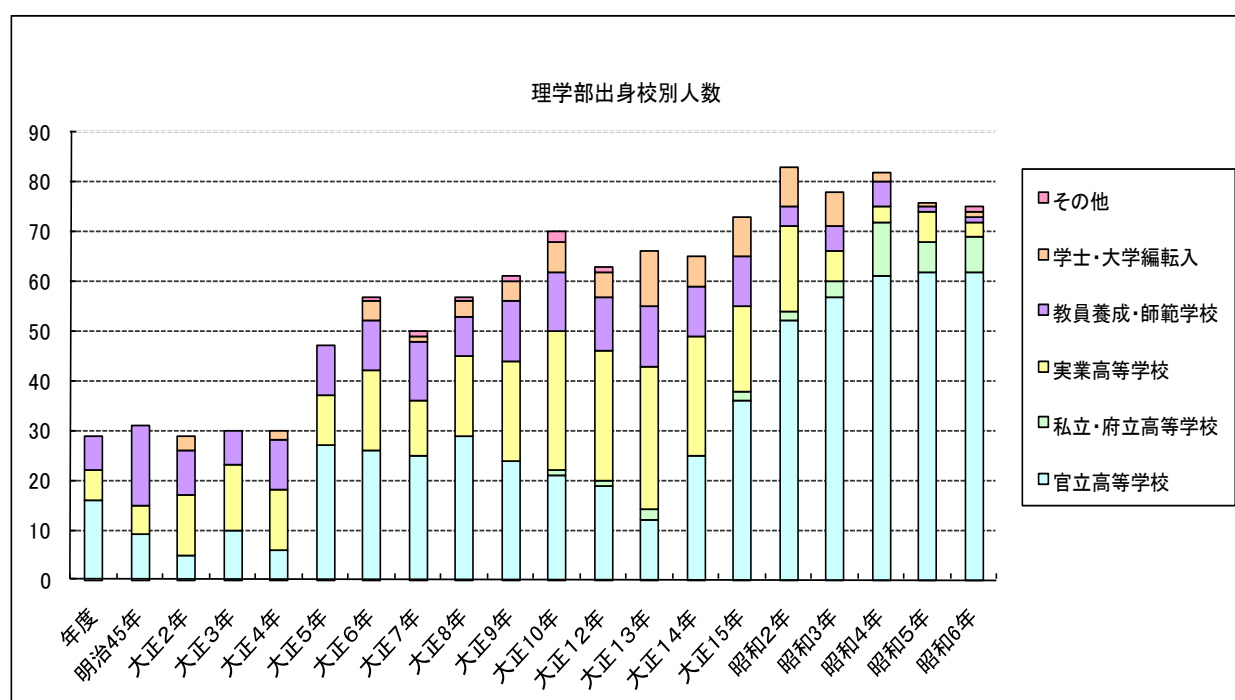


表 1 募集定員と志願者数



「帝国大学官立大学 学部学科別入学志望人員及收容予定人員比較表」(『教務書類』東北大学史料館蔵)より作成。

表 2 出身校別人数の推移(理科大学・理学部)



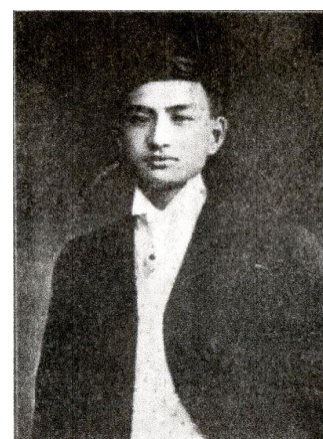
『東北帝国大学一覧』より作成。



足尾銅山 (同写真データベースより)



原敬



古河虎之助



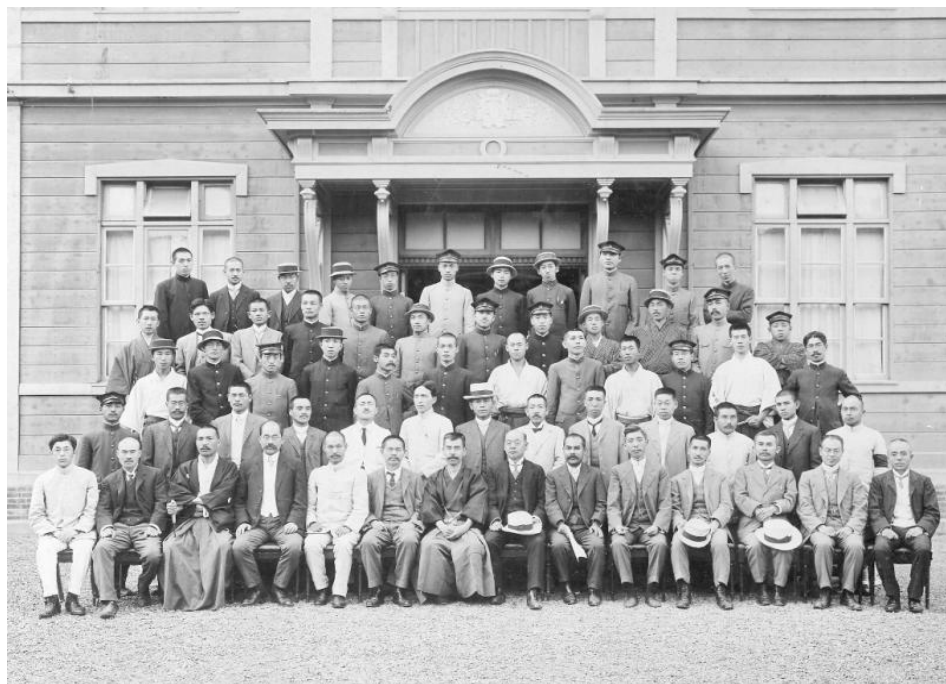
理科大学全景（明治44年） 東北大学史料館蔵



澤柳政太郎・初代総長



丹下ウメ、牧田らく、黒田チカ 東北大学史料館蔵



理科大学第1回卒業記念写真（大正3年夏）

写真の前2列は当時の教官たち。前列左から6番目から本多光太郎、林鶴一、北條時敬総長。後3列が学生。